

計画の名称	生活避難場所への防災備蓄倉庫の整備（防災・安全）		
計画の期間	平成26年度～平成29年度（4年間）		
計画の目標	東日本大震災では広範囲にわたる道路の通行不能や燃料の枯渇により避難所への物資輸送の停滞が生じたことから、全ての生活避難場所で食料や生活必需品を備蓄することとし、食料や生活必需品が未整備の生活避難場所に防災備蓄倉庫を整備し、整備にあわせ集中備蓄倉庫から備蓄物資を移管し分散備蓄体制を推進することで、迅速な物資供給体制を整備する。		
計画の成果目標（定量的指標）	迅速に食料や生活必需品を供給できる生活避難場所の割合を増やす。（最終目標数値：100%）		
定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		備考
	当初現況値 (H26当初)	中間目標値	最終目標値 (H29末)
大規模災害の発生時においても、迅速な物資供給体制を確保するため、その体制が整う生活避難場所の割合を目標数値とした。 (迅速に食料や生活必需品を供給できる生活避難場所の割合（%）＝食料や生活必需品等が整備済の生活避難場所数/全生活避難場所）	75.5%		100.0%

1. 要素事業の進捗状況

事業費	H26	3 百万円
	H27	2 百万円
	H28	3 百万円
	H29	2 百万円
	合計	10 百万円

食料や生活必需品が未整備の全ての生活避難場所への防災備蓄倉庫の整備を行った。（別紙及び別図参照）

2. 事業効果の発現状況、目標値の実現状況

要素事業の 効果の発現状況	事業実施の結果、平成30年7月豪雨災害時において、迅速に物資を供給することができた。		
	防災備蓄倉庫設置例 		
目標値の実現状況	指標： 迅速に食料や生活必需品を供給できる生活避難場所の割合（%）＝食料や生活必需品等が整備済の生活避難場所数/全生活避難場所		
	中間目標値（未設定）	最終目標値（H29末）	目標値と実績値に 差が出た 要因
		100%	
	中間実績値（未設定）	最終実績値（H29末）	
		100%	

要素事業に併せて実施した他事業の効果の発現状況、及び本計画以外に設定した目標値の実現状況

3. 今後の方針

全ての生活避難場所に防災備蓄倉庫を整備し、食料や生活必需品の備蓄が可能となったことから、今後は大規模災害の発生時において迅速な物資供給体制が確保できるよう、防災備蓄倉庫及び食料や生活必需品の適正な維持管理に努めるものとする。

4. その他特記事項